

営農だより 野菜版 7号

J A 御 殿 場 営 農 課
2021年(令和3年)6月4日発行

お茶の病害虫防除

1番茶の収穫も終わり、整枝を済ませている茶園も多いと思います。最終整枝後に病害虫の防除を行うことで、翌春の1番茶の親葉を充実させ、高品質な生葉生産を目指しましょう。

1. 防除の時期

最終整枝後、約30日で^{ほうが}萌芽^{※1}が始まります。まず、1回目の防除は1葉開葉期^{※2}に行います。そして、約10日後の3葉開葉期^{※2}に2回目の防除を行います。

※1…萌芽とは、茶の芽が出てくること

※2…開葉期について

萌芽	1葉開葉期	2葉開葉期	3葉開葉期
	萌芽から12～15日	1開葉期から5～6日	2開葉期から5～6日

2. 病害防除の対象及び推奨薬剤

防除回数	対象	薬剤名
1回目	炭そ病・もち病	オンリーワンフロアブル
2回目	褐色円星病	カスミンボルドー

トウモロコシの防除

防除回数	留意点
1回目	■雄穂抽出のごく始めに1回目を散布する。(上から覗き、ほ場の10%で雄穂が見られる時期) ◇対象はアワノメイガで、雄穂の上から樹体に十分かかるようにする。
2回目	■絹糸抽出期で1回目の散布から10日後を目安に散布する。(絹糸の抽出がほ場の10%で見られる時期) ◇対象はアワノメイガとアブラムシ。樹体に十分かかるように散布する。
3回目	■絹糸が出揃って2～3日後までに散布する。(2回目の散布から7日後を目安) ◇対象はアブラムシとオオタバコガ。穂を中心に上部の新葉の裏にもかかるよう散布する。

アワノメイガ

雄穂の被害

雄穂へ侵入し、軸が折れる。

茎内での被害

幼虫が髓の部分をトンネルを掘るように食い進む。

アブラムシ類

まず雄穂で増殖し、やがて上位葉や雌穂包皮の間に大きなコロニー（集団）がみられるようになります。アブラムシが大量に発生した株は生育が阻害されるだけでなく、アブラムシの排泄物にカビが発生し被害が拡大する恐れがあるので注意が必要です。

オオタバコガ

多発することは稀ではあるが1頭当たりの食害量が多く、**実害になりやすい**ので注意が必要。幼虫が作物の茎や果実に潜り込むことで食害を引き起こします。また、トウモロコシだけでなくナスやトマト、キャベツ、ゴーヤなど多くの作物に被害をもたらします。

(防除例)

防除回数	散布時期	対象害虫	薬剤名	倍率	1a 当り 使用量	収穫前	毒劇物
1 回目	雄穂抽出の始めに 1 回目を散布	アワノメイガ	パダン SG 水溶剤	1,000 倍	10~30ℓ	21 日前まで	●
2 回目	絹糸抽出期で 1 回 目の散布から 10 日 後を目安に散布	アワノメイガ アブラムシ	アグロスリン 乳剤	2,000 倍	30ℓ	7 日前まで	●
3 回目	絹糸が出揃って 2~3 日後までに散 布	アブラムシ	モスピラン 顆粒水溶剤	2,000~ 4,000 倍	30ℓ	前日まで	●
		オオタバコガ	アフーム 乳剤	1,000~ 2,000 倍	30ℓ	3 日前まで	

●は毒劇物の為、購入する際には印鑑（認印）・身分証明書を持参して下さい。

ゆうずい

雄穂…トウモロコシの木のてっぺんに出る穂のこと。

けんし

絹糸…トウモロコシの実の頭に出る白い毛のこと。

トマトの管理

1. 灌水

定植前の2日間は植穴は2ℓ/穴灌水。定植後は2回1ℓ/穴に灌水。その後は控えて葉つゆがついたら活着。根が活着したら、少量多灌水(毎日少しずつ)を行う。

活着後の灌水方法は①～④のとおり

- ① 1株当たり200ccを毎日灌水7日間
- ② その後1株当たり300ccを毎日灌水7日間
- ③ その後1株当たり500ccを毎日灌水10日間
- ④ その後1株当たり800ccを毎日灌水10日間

2. ホルモン剤の使用

- ・ トマトトーン100倍で、3花開花した花房に使用し、確実に着果させる。
- ・ 1つの花に何回もホルモン剤を使用してしまうと空洞果の発生が多くなるので注意する。

トマトトーン 価格：190円(20cc)

3. 芽かき

わき芽は小さいうちにかき取る事が基本。わき芽が大きくなってから取ってしまうと、トマトのストレスになる上に病気の原因にもなる。

作業遅れはトマトを傷つける。
こまめな手入れが大切です!!



写真上：トマトのわき芽

4. 摘果

適切な生育⇒生長点の太さは、鉛筆。樹体全体の太さ16mmのイボタケ以下で生育している株は果実が500円玉～ゴルフボール大の時に言う。

- ・ 1～2段は3果/果房にする。
- ・ 3段以降は4果/果房が基本です。収穫が終了するまで安定的に着果させる様にしましょう!!

5. 追肥

- ・ 葉面散布 ～草勢管理の微調整は葉面散布剤で行います。

資材名	成分比	希釈倍率	使用量	備考
パワフルグリーン1号	4-6-4	500~900	100ml/m ²	少しトマトを作っている栽培者向け

- ・ 通常追肥～1番果がなり始めるたら追肥を行う。

資材名	成分比	使用量	備考
燐化安s550	15-15-10	10g/株	

- ・ 液肥による追肥～速効性

液肥名	成分比	希釈倍率	備考
トミー液肥ブラック	10-4-6	500~900	水で溶かし、ジョウロや灌水チューブ等で散布する。

ニンジンの栽培

1. 栽培のポイント

ニンジンの発芽率は最適条件でも60～70%なので、適温適湿条件を保って発芽率を向上させることが重要。

2. 土づくり

元肥は播種10日前に全面施用し、耕耘・碎土する。碎土が不十分だと良品は望めない。

3. 施肥

(1a当り)

	資材名	施肥量	備考
土壌改良材	粒状アヅミン苦土石灰	10kg	播種の2週間前に施用
元肥	ジシアン有機s806	12kg	播種の10日前に施用
	粒状ようりん	4kg	
追肥	NK化成2号	4kg	2回目の間引きの時期

4. 播種

ニンジンの種子の特徴

①種子の寿命が短く発芽力が弱い。

②温度が低すぎても高すぎても発芽不良になる。また、乾燥に極めて弱い。

発芽適温15～25℃ 発芽温度8～30℃ ※35℃以上では殆ど発芽しない。

発芽率向上のポイント

①好光性の種子のため、土壌水分が適度である場合、覆土は薄くする。

②乾燥に弱いためなるべく降雨を待って播種するか、灌水してから播種する。

③播種直後に鎮圧して土壌と種子をなじませる。

≪除草剤を上手に使おう≫播種後ゴーゴーサン乳剤を散布する。

薬剤名	1㎡当り薬量	1㎡当り希釈水量	使用時期	回数	使用方法
ゴーゴーサン乳剤	0.3ml	110ml	播種後出芽前	1回	全面土壌散布

5. 栽植密度

畝幅70cm、条間20cm、筋播きの2条とする。

6. 間引き

本葉4～5枚に行い、最終株間6～7cm程度とする。間引く株は、葉色の濃すぎるもの、生育の良すぎるもの、生育の劣っているものを対象とする。

7. 土壌水分管理

播種から本葉5枚頃までは初期生育を促すため、土壌水分を保持する必要がある、乾燥時には灌水する。本葉10枚以降は土壌水分が少なめの方が、根の着色がよく表皮も滑らかになる。

8. 病虫害防除⇒①ネキリムシ対策 ②軟腐病・斑点細菌病対策

(1a当り)

① 薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法	毒劇物
フォース粒剤	0.4～1.2kg	播種前	1回	全面土壌混和	●

② 薬剤名	希釈倍率	使用液量	収穫前	使用回数	毒劇物
スターナ水和剤	1,000倍	10～30ℓ	7日前まで	3回以内	

●は毒劇物の為、購入する際には印鑑(認印)・身分証明書を持参して下さい。